

全国高等学校鉄道模型コンテスト

松崎 武志

旅行・鉄道研究部は、毎年8月下旬に東京ビッグサイトで行われる鉄道模型コンテストに参加している。4回目となる今年も参加し、過去3回はいずれも低い評価しかされなかったが、今回初めて上位10校の入賞に次ぐ、特別賞を頂戴した。

コンテストには「1畳レイアウト部門」や「HOゲージ部門」など様々な部門があるが、その主たる部門が「モジュール部門」であり、主に模型班の部員が半年以上の時間と労力をかけて製作している。用意された縦30cm、横90cm、高さ10cmのボードには、あらかじめレールが2組敷設されていて、それを動かさない限りどのようにアレンジしても構わないという条件の下で、各校の鉄道研究部や技術工作部、地理研究部などが凌ぎを削る。

第1回(2009)はわずか8校で始まったコンテストだが、回を追うごとに増え、第4回の今年は参加校が95校にまで増えた。第3回までは、以前から8月下旬に東京ビッグサイトで行われていた国際鉄道模型コンベンション(JAM)の1つの企画として行われていたが、参加校が増えスペースが取れなくなったため、今年からJAMより独立し、同じ東京ビッグサイトの別のホールで、コンテストのみ独立した。女子校からの参加も4校に増え、テレビの情報番組でも取り上げられたため、JAMとは違う雰囲気を出していた。来年からはJAMとも開催期間をずらし、完全に独立したものになる。

毎回多くの企業から協賛を頂いて開催しているが、今年は単独でホールを借りることになった。多額の費用がかかることになったが、Nゲージのレールでお馴染みのKATO(株式会社関水金属)より特に多くの出資を頂いたため、何とか開催にこぎ付けることができた。次回からの安定した開催のためには多くの有料来場者が必要になる。もし興味を持った方は是非来場して頂きたい。第5回は2013年8月23、24日(金、土)に開催予定である。



前号でも紹介した「鉄研旅行入門」だが、今年も新たに入部した中一生徒13名が参加して8月25日(土)に行われた。

行程：上野	7:38	～	(高崎線・839M)	～	9:21	高崎
高崎	9:56	～	(快速SLみなかみ)	～	12:07	水上
水上	12:46	～	(上越線・740M)	～	13:40	新前橋
新前橋	13:57	～	(両毛線・455M)	～	15:29	小山
小山	15:36	～	(水戸線・759M)	～	17:11	水戸
水戸	17:27	～	(スーパーひたち50号)	～	18:35	上野

今回は当初の集合場所と時刻を旅行1週間前に変更したため、20分遅れてきた者や、申し

込み締め切り後に参加を希望したため、団体割引が適用されなかった者もいたが、何とか無事上野に戻ることができた。

SL みなかみは、機関車の不調から高崎を 30 分以上遅れて出発した。元々渋川駅などの途中駅で停車時間を長く取っているため、水上到着は 10 分遅れで済んだが、このご時勢、もはや SL と定時運行は相容れないのだと思った。

また上越線や両毛線などでは空調効果を高めるため半自動ドアとなっていたが、それで遊ぶ部員が見られた。また、用も無いのに隣の車両へ行き来したり、中にはその際車両間の扉を開け放したため、門番のような乗客に怒鳴られる部員もいた。鉄道は公共交通機関であることを理解し、これを機会に乗車マナーを身につけて欲しい。

水戸ー上野で常磐線に乗車したが、思えば震災前の 2010 年の夏、鉄研の旅行で常磐線を上野から仙台まで乗り通した。あの時は、もうすぐ常磐線が乗り通せなくなるなんて想像もできなかった。夕闇迫る北千住駅を通過しながら、次に常磐線で茨城・福島・宮城と旅行できる時、私は一体何歳になっているのだろうかと思問した。



旅行・鉄道研究部には高 3 が 8 人在籍しているが、彼らは私が中一からずっと受け持ってきた学年の生徒である。前に私が受け持った学年には部員が 1 人もいなかったの、担任してきた部員が高校を卒業するのは初めてである。

本校に入学してきた中一の生徒は、特に志望するクラブが無い場合、担任が顧問をしている部活動に入部する傾向がある。高 3 部員の中にはあまり鉄道に興味や知識が無い者もいるようだが、それでも中一の時から長期休暇の旅行には高い参加率を誇ってきた。鉄道知識の少ない生徒には、かつての鉄道検定や時刻表検定、旅客業務取扱主任者試験の過去問を解かせ、向上を図ってきた。

一方で、冒頭で紹介した第 1 回鉄道模型コンテストの作品や第 3 回の予備作品を仕上げたりして、多大な貢献をしてくれた。そして、何より HP 班に所属しながら模型班や旅行班の活動を見守り続けた部長の存在は大きかった。その教えは今も部員たちの間に根付いている。1 学年下の会計が急遽退部した際に、他のクラブの会計を務めながら、引退までを引き受けてくれた会計がいたことも大きい。

既に高輪を巣立っていった先輩達との間で、活動姿勢を巡って衝突したこともあったが、高 2 の秋に引退した後、高 3 になってから卒業アルバムの写真撮影があり、久々に慣れ親しんだ百周年記念館に集まったことがあった。その時の様子は 6 ヶ月ぶりの集まりを本当に懐かしく、楽しんでいるようだった。大学生になり、またそのように楽しめる場を、今度はそれぞれの進学先で見つけて欲しい。面白いことは、人から与えられる物ではなく、自分達で作上げる物だということを、君たちは知っているはずだ。